

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 20 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370070

研究課題名(和文) 自然神学の言語論的転回とその社会科学への拡張 聖書・環境・経済

研究課題名(英文) Toward a expansion of the natural theology to social sciences in the context of linguistic turn: Bible, Ecology, Economics.

研究代表者

芦名 定道 (Ashina, Sadamichi)

京都大学・文学研究科・教授

研究者番号：20201890

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：自然神学は、古代以来、キリスト教思想と他の諸思想(諸科学)との創造的な関わり合いのための理論的な基盤構築を担ってきた。この歴史的経緯を前提として、本研究は、現代のキリスト教思想の多様な動向を視野に入れつつ、社会科学(とくに、経済学と政治学)との関連で自然神学を再構築することを目指した。本研究の意図は、自然神学の営みを現代の思想状況において継続的に発展させることにほかならない。そのために本研究では、言語論的な視点(聖書解釈)に基づく自然神学の拡張が試みられた。

研究成果の概要(英文)：Since ancient times, the natural theology has played the role as a theoretical foundation for making the creative relationships between christian thoughts and other various sciences. On this historical background, we will consider many trends in contemporary Christian thoughts in detail, in order to rebuild and expand the natural theology in the context of the social sciences. The intent of this study is to continually develop the workings of the natural theology in modern thought situation. In the present study, we attempts to expand the natural theology based on the linguistic point of view (interpretation of the Bible).

研究分野：キリスト教学

キーワード：自然神学 言語論的転回 社会科学 聖書 環境 経済

1. 研究開始当初の背景

現代キリスト教思想は多岐にわたっており一見混沌とした様相を呈しているが、1980年代以降の思想動向を詳細に分析するとき、「キリスト教と科学技術(自然科学が担う近代的合理性と技術的革新)との関わり」と「多元的社会におけるキリスト教の課題・意義(公正・正義に対するキリスト教の寄与)」の二つが、国内と海外を問わず、研究者の共通の関心事となりつつあることがわかる。本研究計画の背景にあるのは、こうした現代の科学技術の問題が社会的正義の問いと無関係であり得ないとの理解である。特に、環境と経済が分離不可能な問題群を構成しつつあることは、注目すべき思想動向と言わねばならない。ここから、現代キリスト教思想において、伝統的な自然神学を社会科学(環境・経済・政治に関わる諸科学)との関わりにおいて再構築するという課題が生じてくるのである。

2. 研究の目的

伝統的な自然神学を社会科学(環境・経済・政治に関わる諸科学)との関わりにおいて再構築するという課題を具体的に遂行することが、本研究の目的であるが、これは、次のステップで進められる。まず、伝統的なキリスト教思想の学科・学問領域としての自然神学について、そこで論じられてきた事柄が、コミュニケーション合理性の問いであったことを確認する。これは、自然神学を社会科学へ拡張することが、自然神学からの逸脱ではなく、むしろ、伝統的な自然神学自体の正当な発展を意味していることを示す上で必要な作業である。次に、本研究は、こうして自然神学の課題として再認識されたコミュニケーション合理性が、現代の思想動向の中で、特に環境論・経済論として具体化されるべきことを明らかにし、さらに、こうした試みが、東アジアのキリスト教思想において

共有されつつある点を確認する。本研究の目的である「自然神学の社会科学への拡張」とは、こうした一連の諸ステップとして分節化されるものなのである。

3. 研究の方法

自然神学の社会科学(環境・経済・政治)への拡張を具体的に試みる上で、本研究が採用する方法論的視点は、「自然神学の言語論的転回」というものである。過去のキリスト教思想史を振り返るとき、キリスト教自然神学は、各時代の知的状況に応答するために、繰り返し「聖書」に帰ることによって理論構築を試みてきたことが確認できる。現代の聖書テキストの解釈理論は、宗教言語論などを視野に入れた現代の言語理論の新展開(=思想の言語論的展開)を参照することによって急速な進展を示しているが、自然神学の社会科学への拡張は、この言語論的転回に応じた聖書解釈理論の刷新の中にこそ、その基盤を見出すことが期待できる。こうした方法論的視点から、本研究では、文献収集・文献分析という基礎的な作業が行われ、そこから自然神学の社会科学への拡張という理論的課題へのアプローチがなされた。

4. 研究成果

(1) 自然神学の社会科学への拡張の具体化

自然神学の社会科学への拡張に関しては、京都大学キリスト教学専修の特殊講義と東京大学での集中講義において、伝統的な自然神学の分析を踏まえて、環境・経済に関連したキリスト教思想の検討が行われた。これによって、聖書解釈に基づく自然神学の社会科学への拡張という本研究の中心課題を具体的に展開する見通しを立てることができた。その成果は、「科学技術とキリスト教」、「脳神経科学とキリスト教思想」といったテーマで行われた、諸学会での講演や雑誌論文として公にされた。

(2)方法論としての聖書解釈

「言語論・聖書解釈」に関しては、キリスト教思想における最近の言語論の展開を、象徴論、隠喩論、テキスト理論との関連において検討し、それを聖書テキスト（特に、イエスの譬え、ヨハネ黙示録）へ適用する試みを行った。それによって、聖書テキストを社会教説（家族・経済・国家についての教説）に接続することが可能になった。これに関しても、学会での講演や雑誌論文の執筆が行われた。

(3)東アジアの動向についての研究と調査

東アジアのキリスト教における動向調査としては、日本国内については、南山宗教文化研究所（南山大学）などいくつかの研究機関を訪問し研究者と討論を行い、また国外については、研究協力者（方俊植氏）と共に韓国ソウルでの調査を数回にわたって実施した。特に韓国YMCAとカトリック教会（環境司牧委員会と貧民司牧委員会）で行われた担当者へのインタビューと文献調査からは、多くの重要な情報を得ることができた。また東アジアのキリスト教思想の動向に関わる研究成果は、日本における文献研究（思想研究）という範囲に限定したものであったが、『近代日本とキリスト教思想の可能性 二つの地平の交わるところから』（三恵社）として出版することができた。ここには、科学研究費補助金によって過去10年程度の間に行われた研究成果が合わせて収録されている。

(4)今後の研究の展望

以上の研究成果から、今後の研究に関して、いくつかの展望が明らかになった。

まず、自然神学を社会科学へ拡張する作業から、科学技術総体をキリスト教思想との連関で論じるという課題が浮かび上がってきた。これは、いわば「科学技術の神学」と言

うべきものであり、本研究で、関連関連づけられた、環境、経済、政治をトータルに捉える視点をキリスト教思想において構築するという問題にはほかならない。

また、こうした「科学技術の神学」を東アジアのキリスト教の文脈で具体的に追求することも、今後の研究課題となる。これは、環境や原子力発電などの具体的なテーマをめぐる、東アジア（日本、韓国、中国）のキリスト教思想の比較研究という仕方を実施すべきものであろう。この際に、フィールドと文献の二つのレベルでの調査を組み合わせるといふ本研究の手法は、さらに方法論として精密化する必要があるだろう。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計9件)

芦名定道、「脳神経科学からキリスト教思想へ」、京都大学キリスト教学研究室『キリスト教学研究室紀要』査読無、第2号、2014、1-14。

DOI:10.14989/185782

芦名定道、「東アジアのキリスト教とナショナリズム 内村鑑三の非戦論との関連で」、現代キリスト教思想研究会『アジア・キリスト教・多元性』査読無、第12号、2014、75-91。

DOI:10.14989/185789

芦名定道、「キリスト教思想と宗教言語

象徴・隠喩・テキスト」、京都大学キリスト教学研究室『キリスト教学研究室紀要』査読無、2015、1-18。

DOI:10.14989/197489

〔学会発表〕(計5件)

芦名定道、「原子力とキリスト教思想
矢内原とティリッヒ」キリスト教文化学
会・シンポジウム講演、2014年11月15
日、関西学院大学・大阪梅田キャンパス

芦名定道、「キリスト教思想と宗教言語
象徴・隠喩・テキスト」日独文化研
究所・第24回公開シンポジウム・講演、
2014年12月21日、ゲーテ・インスティ
トゥート・ヴィラ鴨川。

〔図書〕(計2件)

井上順考、マイケル・ヴィツェル、長谷
川真理子、芦名定道、『21世紀の宗教研
究 脳科学・進化生物学と宗教学の接点
』平凡社、2014年。

芦名定道、『近代日本とキリスト教思想
の可能性 二つの地平が交わるところで
』三恵社、2016年。

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://logosoffice.blog90.fc2.com/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

芦名定道 (ASHINA, Sadamichi)
京都大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：20201890

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者